

第1回 南相馬市復興市民会議 意見のまとめ

■会議で挙げられた意見・要望の集約結果

1. 復興計画の検討にあたっての前提条件

- 現状を十分に認識して復旧ポイントを明確化することが必要
- 市外避難者が戻れる最低限必要な状況を整理することが必要
- 全市民が元の生活に戻れることが復旧・復興の基礎
- 原子力災害の不安、放射能の除染、風評被害を取り除くことが必要
- 前向きに皆の知恵を出し合い南相馬の復興を目指す
- 市民が積極的に参加できる計画づくり・取り組みが必要
- 復旧と復興の目標設定・役割分担の明確化が必要
- 南相馬市固有の3区の実情を捉えた計画づくり、検討組織体制が必要
- 行政の横断的かつスピード感ある対応が必要
- 復興市民会議の目的を明確化し、責任ある発言、提言とりまとめが必要

2. 市民生活環境について

- 市民生活に安心・安全と心の安らぎが必要
- 小高区住民が抱える不安と生活再建への対処
- 医療関係スタッフの確保が必要
- 地元医師による心のケアが必要
- 図書館開館が必要
- 地域の伝統・資源を活かした復興が必要

3. 地域経済について

- 生活の基盤をなす地域経済と雇用の確保
- 長期的なスパンによる農業再生が必要
- 既存農地の利用転換（新エネルギー基地、植物工場、大規模農業生産法人化）
- 漁港関係者の意向をふまえた施設復旧が必要（高台移転など）
- 売上げ減や風評被害をふまえた商工業の復興
- 脱原発を契機に自然再生エネルギー、原子力研究施設など新産業の創出
- 特区活用や相双地域広域連携による経済発展が必要

4. 都市基盤について

- 居住可能エリアにおける早急な住宅地整備が必要
- いわき方面への迂回道路整備が必要
- 放射線の除染も含めた都市基盤整備が必要
- 新たな都市計画・土地利用による復旧が必要
- 建物危険度調査の実施が必要
- 地域コミュニティに配慮した仮設住宅建設が必要
- メモリアルパーク整備が必要

5. 原子力対策・防災について

- あらゆる災害に対応できるまちづくりが必要
- 原子力災害に対する迅速なデータ収集と管理・情報開示のシステムが必要

6. 教育・子育て環境について

- 子どもの環境を守るための学校の除染・復旧・メンタルケアなどが必要

7. その他

- 市民レベルの連携や国・県・市における連携が必要
- 基金・補助制度・助成金などの様々な財源確保が必要
- 南相馬伝統行事の継続が必要

■会議で挙げられた各種意見・要望

注)・：会議での意見

☆：会議後の意見募集シートによる意見

1. 復興計画の検討にあたっての前提条件

○ 現状を十分に認識して復旧ポイントを明確化することが必要

- ・復旧と復興の議論の前に、現状を捉えて、復旧のポイントを話し合う必要がある。
- ・これほどの状況になるのか、という苛立たしさが聞こえてくる。現状を十分認識すべき。
- ・南相馬市は一体となって取り組むべき。様々な気持ちを分かち合うために、巨大津波、巨大地震による被災を受けた共通の被害認識をお互い理解していく必要がある。
- ・鹿島は4部落、流されてしまった。行政の力でどうにかしてほしい。災害に遭い丸裸になりどうしようもないのが実情。復旧なしに復興はない。

☆現状認識ができていないうちは、先は見えない。

○ 市外避難者が戻れる最低限必要な状況を整理することが必要

- ・避難している人たちが、戻って来るために最低限必要な状況を考える必要がある。
- ・復旧の段階で、離散していった市民をどう戻すか、解決方法が課題である。

☆子どもと若者が避難しており、女性の働き手が皆無に近い。最近では、一旦戻った若い家族が再び南相馬を離れている。

○ 全市民が元の生活に戻れることが復旧・復興の基礎

- ・まちを再興していくためには、住民が帰ってくることが一番。
- ・全市民が元の生活に戻れることを目標に、復旧復興にあたることが一番の基礎となる。
- ・避難者には、避難所が何月何日迄とはっきり言わないと、これから自立できなくなる。

○ 原子力災害の不安、放射能の除染、風評被害を取り除くことが必要

- ・人々が戻って来られる状態をつくりたい。放射能の除染を行い、原子力災害の不安を取り除いて、共に進んでいくようにしたい。
- ・神戸が変わったように、南相馬市も変わるのではないかと感じている。原子力災害については、避難者が戻って来られるような将来について話し合えたらよい。
- ・復旧と復興は違う。復旧のことを考えると、まず除染は必要。
- ・原子力災害の克服は研究・医療のほか、風評被害もある。

☆「人間の安全保障」を決してあきらめない姿勢を明確にした上で、人間性や自然との共生を重んじた地域の再生を目指す。

○ 前向きに皆の知恵を出し合い南相馬の復興を目指す

- ・後ろ向きの考えではなく、前向きに考えよう。いろんな方の集まりの中ですばらしい復興を目指そう。
- ・皆の知恵を出し合って、7万人の都市になるように頑張りたい。

☆「この逆境の中に飛躍のきっかけを求めよう！」沈んでばかりいてはダメ。できることから始めよう！

○ 市民が積極的に参加できる計画づくり・取り組みが必要

・市民がもっと身近に感じ、一緒にさあやるぞという計画になるとよい。

☆市民の意見を100%組み上げる取り組みが必要。

☆市民が参加していると感じられるような、一般公募意見が多く寄せられる手法を積極的に取り入れてほしい。特に、中高生や若者が意見を出しやすいように、意見用紙を市民の目に触れる場所に置くなど工夫してほしい。

☆「自分たちのまち」という意識を醸成するように。

☆行政機能の復興。市民の要望待ちではなく市民を奮い立たせるような市からの提案。

○ 復旧と復興の目標設定・役割分担の明確化が必要

・安心できる地域にしたい。復興に向けて、中期的、長期的に考えるべき。

・復興と復旧は分けて考える必要がある。ビジョンは中長期プランである。将来に向かった計画として、どんな都市構造、産業構造を目指すかなどを検討する。

・最大の関心事は、将来はどうなるのかということ。まず、復旧のことを考え、それにつながるような夢のある復興ビジョンをつくる。復旧は、行政や市議会に任せるといった役割分担を整理する必要がある。

・復興は、将来の復旧の道筋をたてた中で進めてほしい。

☆復興ビジョンは何年後を設定するか、委員全員に認識を徹底させる必要がある。

☆復救（ふきゅう）・復幸（ふっこう）を目指して。

☆復興とは確かな日常を取り戻すこと。

○ 南相馬市固有の3区の実情を捉えた計画づくり、検討組織体制が必要

・南相馬市の目は地区に向けられていないのではないかと。鹿島区の市民は怒っている。

・鹿島区は、小高区や原町区からの被災者を受け入れており、基金で補填してもらいたい。市長や副市長の挨拶に南相馬市は一体とあったが、温度差がある。

・南相馬市は事情の異なる3つの区を抱えており、区ごとの特徴を捉えて考えるべき。

☆南相馬市固有の合併時から抱えていた問題・課題の解決。（財源不足、人口減少、産業・市場消失、インフラ崩壊、コミュニティの分断）

☆復旧・復興の工程は3区が同じでない方がよい。それぞれの工程表は異なる。

☆すべての市民が復興に向けて共有、共通意識を持つことは大切だが、区による意識が異なり難しい。しかし、早く復旧・復興に進みたい。

☆区ごとの特徴を踏まえた施策が必要。

☆復旧、復興に要する時間や想いは各区で異なるため、「小高部会」、「原町部会」、「鹿島部会」で分けてはどうか。ただ、市として向かうベクトルは1本に。

○ 行政の横断的かつスピード感ある対応が必要

・市役所、事務局が横断的に対応してほしい。

・対処するスピードが大切。

○ 復興市民会議の目的を明確化し、責任ある発言、提言とりまとめが必要

☆部会で検討された内容を復興会議へ報告をすべき。

☆会議目的を明確に。個人の意見しか出されないような会議ではいけない。

☆委員が言いつばなしであれば議論が成立せず、提言がまとまらないのでは。

2. 市民生活環境について

○ 市民生活に安心・安全と心の安らぎが必要

☆行政は、市民に安心・安全と心の安らぎを。

○ 小高区住民が抱える不安と生活再建への対処

- ・小高区は警戒区域になり、ゴーストタウンになってしまった。他の地区とは異なる事情がある。いつ帰れるのか不安で問題課題が山積している。それを認識してほしい。
- ・小高区の方々は、命を失った方もおり、ふるさとを亡くしている状態。長期的に対応の仕方が分からないままの方が多数いる。福島県外まで避難するなど切実な状況がある。
- ・小高区の土地に戻ったとしても、どうしたらよいのかという気持ちである。どう対応していけばよいのか。また、個人に対して、原子力発電所の事故にかかる支援がない。

○ 医療関係スタッフの確保が必要

- ・市外に流出した医師、看護師が多いが、給食の問題が一番大きく、ベッドがあっても、食事がでない。また栄養士がいない。スタッフを確保する必要がある。

○ 地元医師による心のケアが必要

- ・南相馬市でも、いろいろな隔たりがある。家族を亡くした人、避難した人など様々な状況があって、心の中がぐちゃぐちゃしている。心のケアが大切。
- ・心のケアは、外部から調整するのもいいが、南相馬の医者にある程度任せてほしい。

○ 図書館開館が必要

☆市立図書館の開館を望む市民の声が多い。

○ 地域の伝統・資源を活かした復興が必要

☆伝統文化、地域資源の復興から始まる復興。

☆「温故知新—古きを守り、新しきにチャレンジする 新しいまちづくり」

3. 地域経済について

○ 生活の基盤をなす地域経済と雇用の確保

- ・南相馬市の経済をどうするか。生活の基盤となる給与をどうするか。戻りたいが戻れないという事が問題。
- ・職がないということは、人を不安定にさせる。雇用の問題は基本的な事項。
- ・被災者への支給品などは市外の業者が持って来るため、市内では食料すら売れない。

○ 長期的なスパンによる農業再生が必要

- ・新地町、相馬市、南相馬市は圃場事業で農地を整備してきた。農業の再生は長期スパンで検討していく必要がある。関係機関と調整しながら進めてほしい。

○ 既存農地の利用転換（新エネルギー基地、植物工場、大規模農業生産法人化）

☆塩害農地、放射能汚染による放棄地などの有効利用（新エネルギー基地、植物工場、大規模農業生産法人立ち上げ）。

○ 漁港関係者の意向をふまえた施設復旧が必要（高台移転など）

・漁船が全壊する中、国県等の協力を得て、相馬原釜漁協が復旧したところ。原発事故が早く納まればよい。行政指導で高台移転を行った人の意見として、高台は安全だが海までの距離が遠いとある。

○ 売上げ減や風評被害をふまえた商工業の復興

・市内商工業者は、売上げが殆どないという状況の中、走りながら解決方法を考えている。
・鹿島は30km圏外も風評被害を受けている。商業は補償の枠がなく、飲食店、惣菜店のみに、街中にどうやって人を呼ぶかが課題。

○ 脱原発を契機に自然再生エネルギー、原子力研究施設など新産業の創出

・脱原発として、自然再生エネルギー（太陽光・風力・生ごみ・薪）を活用するとよい。
・原子力発電所事故に伴う線量測定を行い、その情報センター等関連施設をつくる。原子力災害を逆手にとって、南相馬市のブランドになるようなことをしたい。

☆被爆医療病院の設置、低線量放射線が人体などに及ぼす影響について研究施設を誘致。

☆太陽光発電等の自然にやさしいエネルギーの設置。

☆市民一丸となり新たな産業創出による復興（自然エネルギー産業へ）。

☆低炭素時代の産業立地に特化し、雇用創出を図る。

○ 特区活用や相双地域広域連携による経済発展が必要

・日本の地方都市の経済状態に夢を与えるような復興の企画が重要。

☆特区活用による経済発展。

☆相双地域の中心都市、相双広域連合の形成（ヒト、モノ、カネ、情報が集まる整備）。

4. 都市基盤について

○ 居住可能エリアにおける早急な住宅地整備が必要

・住める場所については、インフラ整備を進めてほしい。

○ いわき方面への迂回道路整備が必要

・当面、いわき方面が通れないので、迂回同を整備する。

○ 放射線の除染も含めた都市基盤整備が必要

☆放射線の除染は、インフラ整備の一つ。

☆地盤改良を含めた住宅地造成、耐震補強、徹底除染。

○ 新たな都市計画・土地利用による復旧が必要

・高速道路、広域道路もない。新しい都市計画が必要。戦後の焼け野原と同じで何も無い。改めて、同じ認識を持って、行政も市民も、どう復旧に取り組むかが課題。

○ 建物危険度調査の実施が必要

- ・南相馬市・相馬市は建物応急危険度調査を実施していない。危険な建物が倒れる可能性のある土地に住んでおり、早急に調査する必要がある。

○ 地域コミュニティに配慮した仮設住宅建設が必要

- ☆鹿島の仮設住宅は、玄関が一定方向の（向かい合わせでない）ため、コミュニティがとれていない。

○ メモリアルパーク整備が必要

- ☆震災を語り継ぎ、教訓とする拠点整備。
- ☆津波を受けた海岸沿いは、公園として景観を良くする。

5. 原子力対策・防災について

○ あらゆる災害に対応できるまちづくりが必要

- ☆あらゆる災害に対応できるまちづくり。

○ 原子力災害に対する迅速なデータ収集と管理・情報開示のシステムが必要

- ・今後 20 年 30 年の内部被爆データを管理するための公的機関を持つべき。
- ・原子力発電所事故について、福島県は静か過ぎるのではないか。国に対して、情報開示を求めたい。今までの情報開示は遅すぎる。スピーディな対応を求めたい。
- ☆ホットスポットに対応する施策を至急に。

6. 教育・子育て環境について

○ 子どもの環境を守るための学校の除染・復旧・メンタルケアなどが必要

- ・一番大切なのは子どもたち。子どもたちをどう守るか。その環境をパーフェクトに守らなければならない。そのために、学校を除染すべき。
- ・子どもたちの環境づくりを早く対応しなければならない。
- ・今後の南相馬市を育てていく子どもたちを守るため、まず学校の復旧を進めてほしい。
- ☆子どもたちを取り巻く環境整備（医療機関、教育機関、メンタルヘルスケア、放射線）
- ☆原子力発電所が収束や除染がなされない状況。特に、学校環境は問題で、安心して暮らせるようになるのか疑問。
- ☆特に、母親の立場からは曖昧な環境に子どもをおいておくことが強いストレス。日常生活で絶えられない結果が南相馬離れを起こしている。

7. その他

○ 市民レベルの連携や国・県・市における連携が必要

- ・国、県と連携をとってもらいたい。市民活動は各活動の連携をとって活動していく。

○ 基金・補助制度・助成金などの様々な財源確保が必要

- ☆課題の解決のためには、財源の確保が必要。

- ☆復興基金設立による資金調達。
- ☆補助、助成金などの支援を活用。

- 南相馬伝統行事の継続が必要
 - ・伝統行事（野馬追等）の継続。